

戦略の概念について→第5章・第6章へのアイデア

「環境操作戦略」という言葉を使うのなら、戦略概念を、Chandler や Ansoff の概念ではなく、さらに拡張することが必要である。

Ansoff は「製品—市場分野の選択」これは、戦略的意思決定

Chandler の言う戦略は、戦略的意思決定（Business の範囲の決定）と管理的意思決定（資源配分）を含む。

Ansoff の戦略経営：戦略自体の「計画—実施—統制」という management を含む

→環境変化（Turbulent）に対して、戦略よりも柔軟な組織が先に反応する（環境→組織）。

これに対して、適合するよう、あとから戦略を変更する（環境→組織→戦略）。

この一部は創発的アプローチである（組織→戦略）。

環境操作戦略は、組織→環境（組織に合わせて環境を変える）を前提。組織から環境への働きかけを前提にしている。

1) 戦略を環境と組織を媒介する手段と定義するなら、広い意味での戦略を考えることができる。

組織—戦略—環境

2) Mintzberg の 5 Ps = 媒介の仕方に関わる。

Ploy = 策略。これが戦略の一般的な意味。相手に対して、自分を有利に導くための方策、という側面（手段）→すなわち戦略の本質は手段

Plan としての Ploy → 戦略 = 計画、これが Chandler や Ansoff の戦略概念

Position としての Ploy : Porter

Pattern としての Ploy : Mintzberg → 環境操作戦略と関連

Perspective としての Ploy : Burney

3) 媒介の仕方と戦略のタイプ

①戦略→組織が、計画アプローチ（Plan）：環境の不確実性の吸収

②環境→戦略が、ポジショニング・アプローチ（Position）

③組織→戦略が、創発的アプローチ（Pattern）：環境の不確実性を回避

④戦略→環境が、RBV（Perspective）